

第4回 ワークショップ検討タスク議事録

1. 日時:平成24年2月8日(水)13時30分～15時30分
2. 場所:日本電気協会 4階 B会議室
3. 出席者
出席委員:渡邊主査(日本原子力技術協会), 井上(日本原子力技術協会), 倉田(中部電力),
小嶋(日立GE), 齋藤(西日本技術開発), 佐藤(東芝), 重光(九州電力),
島津(北海道電力), 錦野(日立GE), 森(関西電力) (計10名)
代理出席:清水(三菱重工業・神田) (計1名)
欠席委員:山本(東京電力) (計1名)
事務局 :糸田川・眞正・吉田(日本電気協会) (計3名)
4. 配付資料

- 4-1 ワークショップ検討タスク 委員名簿
- 4-2 第3回ワークショップ検討タスク 議事録(案)
- 4-3 JEAC4111平成23年度コースIV講習会の開催について(案)
- 4-4 福島の事故とQMS

5. 議事

(1)配付資料確認, 定足数確認

配付資料の確認及び主査による代理委員1名の承認が行われた。また, 事務局により, 代理委員を含め出席委員数が11名で, 全委員12名の3分の2以上となり, 議案決議の定足数を満たしていることが確認された。

(2)前回議事録の確認

主査より, 資料4-2に基づき, 前回議事録の説明が行われ, 正式な議事録とすることが確認された。

(3)今年度の実施内容について

①福島の事故とQMSについて

主査より, 資料4-4に基づき, 3/21のワークショップの基調講演及びパネルディスカッションにおいて説明する「福島の事故とQMSに関する品質保証分科会の見解」の内容確認が行われた。その結果, 本資料をベースに, 3/5のリハーサル時に十分議論することとした。

(主な意見)

- ・ QMS 導入に伴うマイナス面 (マニュアルさえ守っていればよい等) が顕在化したのではないか。
- ・ 結果的に見て, 小さなQMSに手を取られて, 大きなQMSがおろそかになっていたとも考えられる。
- ・ JEAC4111には「安心」は入っていない。「安全」と「安心」は切り分けて考える必要がある。
- ・ 国の事故調査は継続しており, 現在までのところQMS上の指摘はないので, 3/21の講習会の時点でも変わらないだろう。
- ・ 保安活動により安全を担保しており, 品質保証は保安活動のツールにすぎない。にもかかわらず, いつの間にか品質保証が安全を確保すると誤解が生じたのではないか。
- ・ 欧州が採用してきた巨大なベントシステムの実態を知らなかったのが実情だ。
- ・ 大きなPDCAをどのように回すかが課題だ。
- ・ 安全文化をQMSに如何に根付かせるかが問われている。まず規制に取り入れること

が必要。また技術者倫理も問われている。

- QMS導入により、手順書がないといけないとか、決めた手順書しか使用しないとか、形骸化が見られる。
- 米国は公開で規制側と事業者が議論できるが、日本ではそのようなしくみがない。
- 規制の検査の仕方が、品質保証活動を強化すればよいとかいうのは根本的に誤っているのではないか。
- 安全文化といっても、各人の受け止め方は一様ではない。
- 自主保安とは、本来自らが主体的に作っていく活動であるが、事業者が勝手にやっているように規制側から見られているところがある。
- 原子力事故が会社の存亡を左右することが明白になった。
- QMSやQAに関して、根本的なレベルでの想像力の欠如があったことが問題だ。事故の本質を見極め、真の原因に触れないといけないのではないか。
- 形にすると形骸化する。もっと考えないといけない。
- 技能に頼らない手順作りなどと言われるが、書き表せない技能もある。
- ハード偏重で、系統設計がおろそかになっていたのではないか。
- 逆の場合もある。机上でよくても、現場ベースのハードがわかっていないという心配もある。
- 3/21の基調講演で福島事故について触れていただくが、その内容については、この資料をベースに、3/5のリハーサル時に十分議論することとする。

②個別テーマの内容確認

個別3テーマの内容について、概要を確認した。3/5（月）午後（13:30～）に本タスク委員全員及び講習会講師、パネラー全員参加によるリハーサルを行うこととした。

なお、リハーサル会場は日本電気協会C、D会議室とし、当日映写用のPPT原稿は3/2（金）までに事務局まで電子メールで送付いただくこととした。

(4) その他

事務局より、本日（2/8）付けでワークショップの開催案内を発信することの説明があった。

以上